

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 26日

所属・職名	会計ファイナンス・教授	氏名	中村元彦
研究課題	原始証憑等の電子化の進展による IT 会計帳簿への影響に関する研究		
研究キーワード	会計情報、信頼性の確保、クラウド会計	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>会計仕訳が紙媒体の原始証憑を基に作成されることは、人手による仕訳の作成であれば問題ないが、仕訳データの全自動化を考える場合には大きな障害となってくる。このため、販売管理システムなどの業務システムからの RPA を活用した仕訳データの作成、銀行などの資金データからの仕訳データの作成などの動きが進んでいる。</p> <p>研究の成果として、「中小企業における会計の信頼性の担保と IT の活用」として、作成される会計情報が正確で信頼性がなければ利用することができないため、①会計情報作成段階における信頼性の確保、②外部の専門家の検証による信頼性の確保の観点から取りまとめ、中小企業会計学会第 7 回大会で発表を行った。</p> <p>また、大分県宇城市に予算での設定で現場での仕訳を行わず自動化しているため、この視察を実施し、予算の設定による企業会計での適用可能性に関して現地での調査を行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【発表】「中小企業における会計の信頼性の担保と IT の活用」、中小企業会計学会第 7 回大会、2019 年 8 月、広島県民文化センター（広島文化学園大学と県立広島大学の共催）</p> <p>課題研究報告「IT 社会と中小企業会計」（委員長 堀江 正之 氏（日本大学））における担当した章であり、研究委員会メンバーは下記となる。</p> <p>大串葉子（椋山女学園大学）、香山忠賜（香山忠賜税理士事務所）、坂上 学（法政大学）、佐久間裕幸（佐久間税務会計事務所）、中島洋行（明星大学）、中村元彦（千葉商科大学・公認会計士）、畑中孝介（ビジネス・ブレイン税理士事務所）、浜田晴香（税理士法人アイ・パートナーズ）、堀江正之（日本大学）</p> <p>3. 主な経費</p> <p>クラウド会計によるどのようなことまでが可能となり、どの程度の正確性が担保できるかを調査するために、クラウド会計の 1 年間の利用権を購入した。</p> <p>また、大分県宇城市への企業会計的手法の研究（現場での会計知識のない方が仕訳の作成を実施している手法の調査）に関連して、旅費が発生している。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p>			